

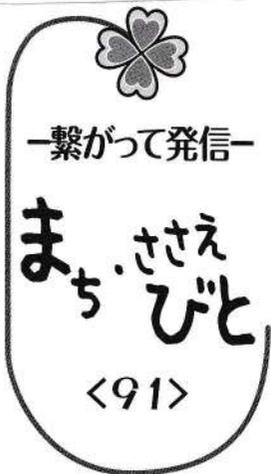


ほうふ日報

令和5年6月29日

**みらぷら理事長交代**

人権擁護活動に取り組む認定NPO法人みらいぷらネット(新橋町)の新しい理事長に、山根美伸氏が就任した。前理事長の有富健氏は会長となった。



り返していただきましたので

ことなく同年代よりかなり低い収入では、保険適用外であった医療費を支払うのは大変で、苦しい生活が続きました。ただ、それはまともにも働いていない人に比べて通院などによる休みも多いわけですから、仕方ないことですね。しかし、こうした社

物事を事実と異なる歪んだかたちで認識してしまうバイアスの一つです。身分や地位が高ければその人は何もかもが良い人で、公私ともに人格者だと思ってしまうようなことです。

のほうです。身分や地位が低ければ、能力がないうえに、変なヤツだということにもなってしまいかねません。これが、差別や偏見につながってしまい、誹謗中傷やいじめが始まる原因にもなってしまっています。



本職を辞して数年経つ私自身もそんなことを忘れていましたが、最近私が信頼している友人と些細なことで口論になりました。彼は責める勢いから私に、こんな言葉を浴びせました。「当時、あんたが昇進できなかったのは病気じゃなく、人事が無能だと判断したからではないのか」と。今まではそんなことを口に出したことはなかったのですが、口喧嘩になってしまつたのでしよう。でも、実は彼が心のなかではそう思っていたのかと思うと、悲しくなりましたね。しかも「無能」という言葉を連呼されるのを、すでに拭き拭きしてはいたはずの私ですが、昔の古傷がまた痛み出したような感触でした。

「いま、ここ」を大切に！  
～リカバリーで生き生きとした人生を～

「ハロー効果」とは物事を事実と異なる歪んだかたちで認識してしまうバイアス

私自身、約10年間の歳月を費やし、ようやく難病であることが分かり、さらにその後の闘病生活を合わせる20年以上を無駄にしてみました。ただ、無駄にしてみました。たと感じたのは仕事関連に限ることでしたが...

まだ病名も判明していません。入院した頃、退院を繰



▲島田教明山口県議会副議長に面会  
今夏のイベントPRに村岡嗣政  
山口県知事に面会



▼池田豊防府市長に面会

そのことでそれ以後、昇進をすることはありませんでした。昇進によって給料の額も上がっていき、給料の額も上がりますので、給料も上がる

その中でそれ以後、昇進をすることはありません。昇進によって給料の額も上がっていき、給料の額も上がりますので、給料も上がる

ロー効果ではなく実際に人格者の方もいらっしゃると思います。ここで問題なのはハロー効果のなかでもネガティブなハロー効果

難病指定や人権教育への奔走と、多くの支援者に救われた  
仕事面で描いていた希望や理想が失われていて

身分や地位が低いことで、人格を認めず能力がないとする  
ネガティブな「ハロー効果」が差別や偏見の原因に...

も、私が挫折しなかったのは別に多くのごことをしなければならぬことがあったからです。病気を難病指定にすること、患者や障がい者の生活のしづらさのために啓発やカウンセリングをする子どもたちへの理解を深めるための人権教育をすることなどです。しかも私の周りには多くの理解者、支援者がおられ、その方々に背中を押されていた私は、進むことを止めるわけにいきません。

恵まれていると言わざるを得ません。しかし、私のほうが特殊であり、ほとんどの社会的弱者は一生懸命に頑張っていてもネガティブなハロー効果が見ることができないでいると思われまふ。「リカバリー」という福祉用語がありますが、これは単なる病氣からの回復ではなく、挫折を乗り越え希望や目標をもって生き生きとした人生にする生き方を指します。過去に何があろうとも「いま、ここ」を大切に、リカバリーしましょう。そして、社会的弱者のリカバリーを応援することが周りの使命であり、偏見や差別をなくし「笑顔あふれる共生社会の実現」への近道であると確信します。

プラネットとは、恒星の周りを回転し、自らは光を発しないが恒星の光を反射する天体のことです。みらいプラネットも笑顔あふれる未来のためにお手伝いできる、頼りにされる脇役でありたいものです。(認定NPO法人みらいプラネット会長 有富健)

(3) 2023年(令和5年)8月10日

毎月20日発行

雄飛

鴻輝新報「雄飛」  
令和5年7月20日(後)

「尾崎眞吾の金子みすゞ展」



入場無料  
金子みすゞ生誕120年

主催 尾崎眞吾の金子みすゞ展 実行委員会  
共催 イオンタウン防府  
協賛 NPO法人みらいプラネット  
山口県 山口県教育委員会 防府市 防府市教育委員会  
長門市 長門市教育委員会 金子みすゞ記念館  
ルネッサなごこ 山口県クリエイティブ会議  
tyテレビ山口 yab山口朝日放送 KRY山口放送

お問い合わせ  
「尾崎眞吾の金子みすゞ展」実行委員会 TEL090-1015-6628

「尾崎眞吾の金子みすゞ展」のポスター

鴻輝新報「雄飛」  
令和5年8月10日

金子みすゞ生誕120年

尾崎眞吾の金子みすゞ展

山口県長門市在住の画家・尾崎眞吾さん(79)の個展「尾崎眞吾の金子みすゞ展」が山口県防府市のイオンタウン防府で開催されている。8月16日まで。入場無料。同実行委主催。NPOみらいプラネット協力。県、県教委、

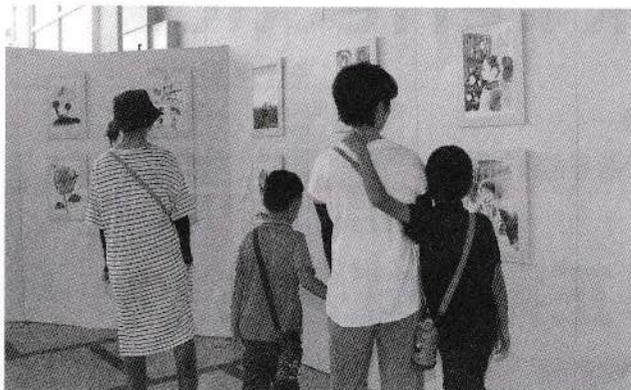
防府市など後援。尾崎さんは長門市出身の金子みすゞの詩からイメージした優しい色とタッチの水彩画200点のほか、緻密な鉛筆画の人物や豪華客船などを展示。夏休みに入った開催初日は親子連れら約20

0人が訪れ賑わった。中には知っているみすゞの詩を声にながら絵を鑑賞する親子の姿も見られた。企画したのは尾崎さんと親交のある大井茂同実行委と尾崎さんの鉛筆画に感動した会社員・栗栖和子さんで、その輪が広がってNPOみらいプラネット(有富健会長)が協力。人

権啓発活動を幅広く展開している有富さんは、幼稚園や小・中学校に同ポスターを配布し、「社会的弱者への思いやりや子どもたちの優しい気持ちを育む教育」と呼びかけた。

※尾崎眞吾 1944年生まれ山口市出身。アメリカの大学院美術学部卒業。71年全日本コマージュナル協議会、フィルムフェスでグランプリ受賞。アメリカや東京を拠点にさまざまなジャンルで才能を発揮。28年前、長門に移住後も美称線「みすゞ号」列車デザインで「メイシス広告賞」グランプリ賞、「第14回山口県文化功労賞」「県選奨」など受賞は多数。現在アニメーション協会・日本児童作家連盟・日本モデルシブ友の会所属。

みすゞの詩とコラボ作品200点



みすゞの詩と尾崎さんの水彩画に見入る親子連れ



尾崎眞吾さん(左)とみらいプラネット・有富健会長